

ケアマネジャーとして思うこと

推進協ワンポイントセミナー

令和3年5月25日

社会福祉法人天寿会

特別養護老人ホーム梅光園

宮内絵美

施設紹介

社会福祉法人天寿会

昭和52年9月に法人認可を受け、多角的に高齢者介護事業を運営。

2021年現在佐賀県多久市・玄海町、福岡市中央区合わせて2市1町で10施設を展開。

特別養護老人ホーム梅光園

平成18年12月1日開設

定員：特養75名 ショートステイ15名

平均要介護度：3.83

看介護職員配置数：1.95：1

併設事業所：

もろくまクリニック

梅光園居宅介護支援サービス

介護付有料老人ホームヴィラ梅光

取り組み：

- ・重度化（看取り、認知症、医療的ケア等）への対応強化
- ・抱えない介護実践の為の援助方法の見直し、福祉用具の活用
- ・地域貢献（ふれあいカフェ、青パトなど防犯活動等
- ・介護ロボットの活用



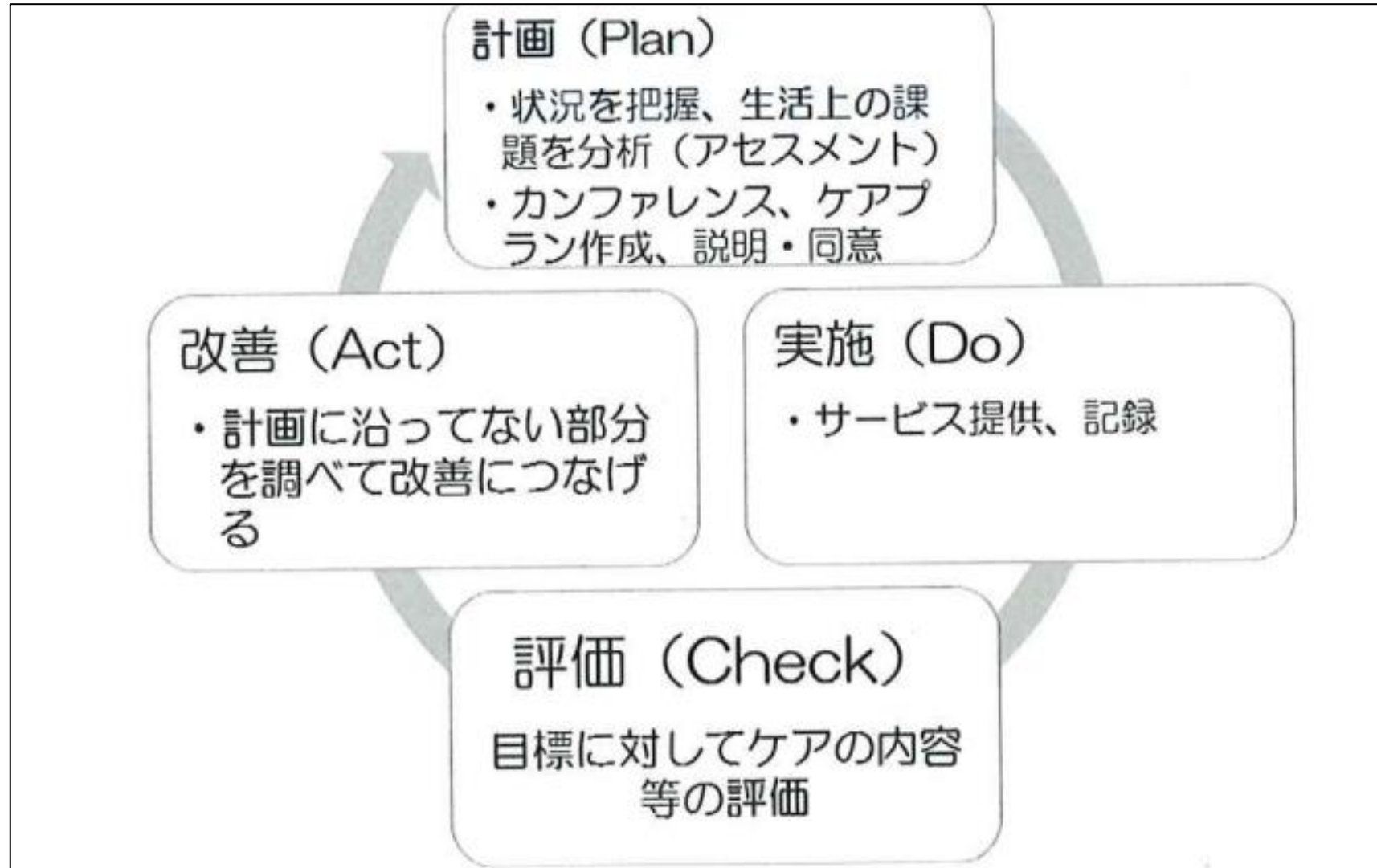
ユニット型施設の運営基準 基本方針

指定介護老人福祉施設の人員、設備及び運営に関する基準



第三十九条

ユニット型指定介護老人福祉施設は、利用者一人一人の意思及び人格を尊重し、施設サービス計画に基づき、その居宅における生活への復帰を念頭に置いて、入居前の居宅における生活と入居後の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて利用者が相互に社会的関係を築き、自立的な日常生活を営むことを支援しなければならない。

梅光園の取り組み



個別援助計画書

| 短期目標 | | | | 健康管理や服薬に関する必要な支援・留意点 | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  | ① 職員や他者と交流を図る | | | <ul style="list-style-type: none"> ・医師の指示に基づく看取りケアの実施（同意書参照） ・体温、脈拍、血圧測定（血圧は入浴日、体調に変化がある際に測定する） ・薬は口の中に入れて飲み込み確認（錠剤の際は散薬にシ対応） ・皮膚状態観察、必要に応じて指示軟膏を塗布する ・体重測定（月1回）・回診（週1回） ・必要に応じた痰を取り除く援助 | |
| | ② 体調が安定して過ごすことができる | | | | |
| | ③ 無理のない範囲で食事を食べる | | | | |
| | ④ 支援を受けて日常生活を送ることができる | | | | |
| 食事形態 | 主食 ミキサー粥 必要エネルギー量：1400kcal | 副食 ミキサー食 味下調整食コード：2-1 | 汁物・水分 具なしトロミ付（ポタージュ状） | 余暇活動に関する必要な支援・留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・在室時は訪室しコミュニケーションを図りふれあいケアを実施する ・職員間に入り他者と交流が図れるよう支援する ・ユニット活動やクラブ活動、施設行事等意向に応じ参加援助 ・散歩援助（ご家族が車椅子で行う） | |
| 支援内容留意点 |  <ul style="list-style-type: none"> ・朝はハーフ食を提供 ・朝は牛乳を提供 ・アイソカルくりんゼリー、ハイカロリーゼリーの提供 ・ペムバルやクリミールなど牛乳に固める等し工夫して提供 ・嗜好に合った食事、水分の提供 ・水分ゼリーの提供 ・スプーン使用し食事は全介助対応 ・カスラと漬物が好き | | | | |
| 入浴援助 | | | | | |
| 支援内容留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・同性介助の希望無し ・自立支援浴使用。体調に応じて医療職と相談しきつい様子がある際はベッド上にて清潔を保つための援助を行う ・マイクロファイバー等の軟らかいタオルを使用（皮膚が脆弱で剥離しやすいため） ・お湯は熱めのお湯を好まれる。 ・洗身、洗髪声掛けし促し不十分箇所や出来ない箇所は介助する ・浴後必要に応じ爪切り、耳掃除（綿棒）援助 | | | | |
| 排泄援助 | | | | | |
| 支援内容留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・排泄アイテムは幅広オムツ+（日中）レギュラーパット、夜間：エキストラワイド使用 ・ベッド上でパット交換を行う ・医師の指示に基づく排便コントロール：排便4日、5日みられない際は体調に応じて看護職により排便を実施 ・トイレ誘導を行う際は体調に応じて医療職と相談し援助する。 ・手すりを持ち立位保持可能（短時間） ・便座に座る際、前傾又は後屈姿勢になるためバーにクッション、背中側にもクッション置き必ず職員は付き添う（R2.1月に手すりの隙間より転落事故あり） | | | | |
| 移乗・移動援助 | | | | | |
| 支援内容留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・移動は車椅子使用し職員全介助対応 ・移乗は脇下を抱えて行う。立ち上がり（少し力が入られる）、立位保持可能（短時間） ・車椅子からの移乗の際は両サイドのフットレストを外側に開いて援助を行う ・車椅子座っている際はフットレストを開いて足を床について頂く | | | | |
| 夜間帯に関する必要な支援・留意点 | | | | | |
| 体位交換 | <ul style="list-style-type: none"> ・エアーマットの使用 ・ベッド臥床時足元センサーの使用（時々ベッドにて体動がみられる事あり、興奮状態時には起き上がり行為もあるため） ・睡眠状態観察 | | | | |
| なし | | | | | |
| 巡回 | | | | | |
| 1時間毎 | | | | | |
| その他支援の必要な事 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・難聴の為耳元でやや大きな声にて声掛けを行う（補聴器は現在状態に応じて装着していない。今後も状態に応じて多職種で相談し対応する） ・不安が強い際は手に触れるなどして訴えの傾聴を行う | | | | | |

ケアプランに基づく、具体的な計画として作成。
どの職員も同じように対応できるようにこまかな留意事項を記載しています。

現実 . . .

- ・ プラン通りにケアを実施しておらず、ヒヤリハットに繋がった事例
- ・ 職員の力量によって記録に差があり、モニタリングの根拠として再度聞き取りが必要な事例
- ・ 各職種のモニタリング内容が前回と同じ？（＝コピペしてる？）

といった課題があり、その都度ユニットリーダーや他ケアマネジャー達と解決のために取り組みを行っています。

嬉しいことも . . .

- ・ モニタリングやアセスメント情報の追加内容がこまやかに行われている
- ・ カンファレンスで入居者の意向やできることを叶えるべく活発な意見交換

Aさん（86歳、男性）要介護4

末期の腎不全状態となり、最近では食事や水分を摂取されず脱水状態が進行。嘱託医からの説明に、慣れた梅光園でできるだけ苦痛なく最期まで過ごしたいと希望され看取り対応開始。

長男：昔からちゃんぽんが好きでご飯食べ行こうってなったら毎回〇〇のちゃんぽんでした。今はコロナで外出難しいけど食べさせるの難しいですよね？

本人：ちゃんぽん食べたい！コーラが飲みたい！

→ケアプランの意向欄にもちゃんぽんが食べたいを明記。



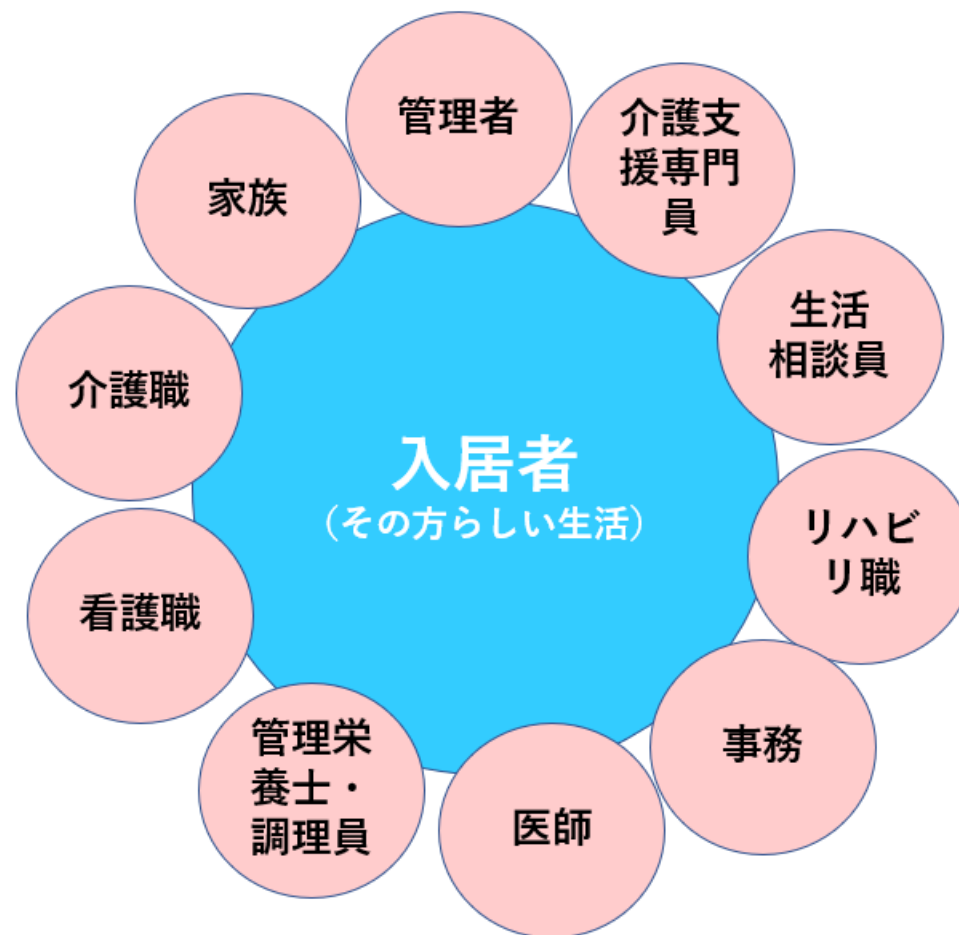
ケアマネジャーとして思うこと

入居者一人ひとり、意向も性格も生活歴も異なれば、同じ病名でも症状のあらわれ方、抱えておられる困りごとも異なります。

一緒に生活を送る中でみえてくること、徐々に築きあげる信頼関係の中で、ご本人やご家族、ご友人などから教えて頂くことで情報の厚みがましていきます。

なぜそのケアが必要なのか？根拠に基づくケアの実践を行うことで、安心・安全な生活、その方らしい生活の継続に繋がっていくと思います。

今後もチームケアの橋渡し役として連携を図り梅光園で良かったと思って頂けるよう支援していきたいと思っています。





ご清聴ありがとうございました

